
テイルズオブウィンド

キラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テイルズオブウィンド

【Nコード】

N7652T

【作者名】

キラ

【あらすじ】

この物語は世界のために戦った英雄達のお話です。

プロローグ

人と魔物との戦い「人魔大戦」が終結してから約100年の月日が経った。人々は世界から溢れ出している根源エネルギー「マナ」の恵みにより、繁栄を築き上げようとしていた。

しかし、マナを大量に消費している国では貧富の差が出てきて、多く人々は土地を捨て、別の場所へ移り住んでいきました。そこで国が起こしたことは、やはり戦争だった。まだ100年しか経ってないのにまた戦争を始めた。勿論原因はマナの奪い合いである。マナ大量消費国は別の国にあるマナを自分たちの物にするために争いを起こしたのである。

この戦争でまた多くの人々や村などが犠牲になりました。そこで町の自警団達は後に「ギルド」そんな世の中を生き抜いてギルド生活をおくっている二人組がいた。

？　　／＼えーと。今日の仕事は何だっけ？

？　　／＼魔物の討伐だ。忘れたのか、キョウヤ。

キョ　／＼悪り／＼悪り／＼。ヒイロ。

ヒ　／＼ハ？、全くすっかりしてくれよ。

僕はヒイロ・リュカベル、この物語の主人公です。隣にいるのは、キョウヤ・センクティー、僕の幼なじみです。キョウヤは主に銃などを使った戦術を得意としています。僕の場所は刀を使って戦います。僕らはギルドを結成して様々な仕事をこなしています。今丁度、隣町から魔物の討伐依頼がきたので《コルフェイト大森林》に向かっている所です。キョ／＼なあ、目的地のコルフェイト大森林はまだか？　ヒ／＼まだかって、目の前に森が見えるだろ。あれがコルフェイト大森林だ！

キョ　／＼へえ／＼、あれがね／＼。

キョウヤはニヤニヤしながら前方の森を見ていた。ようやく目的地のコルフェイト大森林の前に来た。

キョ／＼へえ、森の中は光が差していてきれいじゃねえか。

ヒ／＼油断するなよ。どんな魔物がいるか分からない。

キョウヤは両手に銃を構えて、「了解」と言った。

しかし魔物の出てくる気配が感じられない。

ヒ／＼おかしい。

キョ／＼何が？

キョウヤは「ハア？」って感じでこっちを見た

ヒ／＼この森は野生動物が多いから、狩りをするのに丁度いい場所だ
って聞いたんだけど、気配が全く感じられない、薄気味悪い。

キョ／＼確かに気味が悪くな。

さらに森の奥まで進むとあたりから変な匂いがしてきた。

ヒ／＼ん！？

キョ／＼なあ、この匂いは何だ。

ヒ／＼この匂いは……。

するとヒイロは「はっ！」とした顔で言った。

ヒ／＼血の匂いだ！

キョ／＼何！？

二人は走って匂いの元へ向かった。そこにはたくさんの魔物の死体
が横たわっていた。

キョ／＼ひでえ！

ヒ／＼みんな死んでる。

二人はその光景を見て、啞然とした。

するとその先に石でできた門があった。

キョ／＼！！、ヒイロあれっ！？遺跡じゃないか？

ヒ／＼えっ！？

そして二人はその門にむかって走った。

第一章 出会い（前書き）

僕たちは町の人からの依頼で「コルフエイト大森林」に向かった。その森の異変に気づいた二人はさらに奥に向かった、そこにはたくさんの魔物の死体があった。さらに調査していると遺跡らしき建造物を見つけ、潜入しようと試みた。

第一章 出会い

よく見るとその門にむかって血が点々と落ちていた。

キョ／＼この中にいる…のか？

キョウヤは震えた。

ヒ／＼恐いのか？

キョ／＼へっ！ただの武者震いだよ。

ヒイロはクスツと笑って、遺跡内に進入した。後に続いてキョウヤも入って行った。

キョ／＼広い遺跡だなあ。なんか出てきそうだな。

ヒ／＼！！

ヒイロは足を止めた。

キョ／＼今度は何だよ！

小声でヒイロを怒鳴った。

キョ／＼少しは考え…て。

奥からグチャツグチャツと音が聞こえてきた。

ヒ／＼何かいる！

キョ／＼何かってなんだよ！！

おそろおそろ近づいてみるとボロボロの服を着た女の子がいた。

するとキョウヤはホツとして、女の子に声を掛けた。

キョ／＼君、この辺に魔物を見なかったか？

女の子／＼……。

しかし、女の子は答えようとしなない。するとキョウヤはイラツとして、

キョ／＼なあ、本当に知らないのか！！

と怒鳴った。

そのとたんヒイロが叫んだ！

ヒ／＼！！、キョウヤ下がれ！

キョ／＼えっ！？

キヨウヤが下がった瞬間、物凄い音をたてながら、女の子は腕を振り上げた。よく見てみると腕を変化させて攻撃してきた。

キヨ▽あ…あぶねえーじあねえーか！！

女の子▽……。

さらに追い討ちをかけてきた。

キヨ▽！

するとキヨウヤの目の前に来て、蹴飛ばした。

キヨ▽ぐはっ！？

鈍い音を立てて、キヨウヤの体は向こうの壁まで吹き飛んだ。

まともにくらったキヨウヤは蹴られた腹部を押さえて、悶えていた。

ヒイロはキヨウヤを庇うように前にでて、刀を構えた。

その瞬間、口を訊かなかった女の子が喋った。

女の子▽あなた…他の人と違う…。

さっきまで好戦的だった女の子は、手を引いた。

女の子▽ごめんなさい、こんな事するつもりはなかったの。本当にごめんなさい。

キヨ▽いいよ別に、イテテテ。それより君の名前は？

その子は悲しそうな顔をして言った。

女の子▽名前…なんて、無い。

キヨウヤは「えっ！？」と言った。

ヒイロ▽訳ありだね。

そう言った時にその子は頷いた。

女の子▽私…捨てられたのよ。この場所に。昔は普通の人と変わらなかった。けど、ある日私が一人お遣いで隣町に行って帰ったときに住んでいた村が焼け野原になっていたの。

するとキヨウヤはこう言った。

キヨ▽帝都と王都とのマナを巡る戦争か…。

女の子▽うん。…その時に私も危険だと離れて逃げていたら、兵士に見つかって殺されそうになったの。その時にこの力に目覚めたのよ。でも、この力のせいで引きとってくれた叔父や叔母に嫌な目で

見られた、仕舞いには町の人と結託して幼かった私を此処に棄てたのよ。

いろいろ悲しい過去を背負っていたことを知ったヒロ達はその子にこれからどうするのかを聞いた。

ヒ◇これからどうするの？

女の子◇私は…。

答えにつまっていた時にキョウヤがこう言った。

キョ◇もし…よかったら、俺らに付いてこないか？

その子は困った顔をして言った。

女の子◇でも私…みんなに迷惑かけちゃう！

ヒ◇大丈夫。僕達も似たようなものだから。

キョ◇そう言うこった、迷惑なんてないから一緒に来ないか。

そしたら、その子は「うん」と戸惑うことなく答えた。

キョ◇んじゃ～よろしくな。えっと…

名前が無いことを忘れてた。

女の子◇じゃあね、キョウヤが付けて。

キョ◇えっ！？じ…じゃあ、「リリー」でどうだ！

ヒ◇キョウヤにしてはいい名前を付けたね。

キョウヤはイラッとして

キョ◇ヒロ、そりゃあどういう意味だ！？

ヒ◇言葉どうりだけど。

キョ◇んだとっ！！こら～！

キレたキョウヤはヒロを追いかけ回した。それを見て、リリーは笑いながら二人を追いかけて行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7652t/>

テイルズオブウィンド

2011年10月8日12時12分発行